### ３．４．１．２．　分析

分析結果を右に示す。

Ａの調査項目に関して統計をみると、＜中心的建物が一番高い建物＞の約６０％が中心的建物が一番高い「建物」であるにもかかわらず一番高い「物」ではないように描かれているという結果が出た。ここでいう建物より高い物はほとんどが樹木であった。

Ｂの調査項目に関して統計をみると、伽藍が立体的に展開されている中心的建物が約４４％あるが、そのうち４０％が一番高い地盤に建てられていないよう描かれている事が分かる。

Ｃの調査項目に関して統計をみると、＜中心的建物＝拝殿＞が一番多くて４２％、続いて＜中心的建物＞拝殿＞が３１％、＜中心的建物＜拝殿＞が２７％であった。

これらの統計から分かる考察は、

Ａの結果より　『江戸名所図会』に描かれている宗教施設の中心的建物は、比較的他の周りの建物より高く建てようとする傾向が見られるが、多くは樹木を超える程高く建てなかった。言い換えると、多くの宗教施設は中心的建物を相対的に他の建物より高く建てようという意思を感じさせるものは多くあったが、象徴的な高さを獲得しようという意思を感じさせるものは少なかったという事が予想できる。

Ｂ、Ｃの統計結果は、中心的建物が一般的に高さを象徴性を獲得するために利用しているとは言えない事を示す結果であった。

| | |
|---|---|
| A | |
| 対象数 | 344 (100%) |
| 中心的建物が一番高い建物（1） | 237 (69%) |
| 中心的建物が一番高いもの（2） | 96 (28%) |
| B | |
| 対象数 | 344 (100%) |
| 立体的伽藍（3） | 150 (44%) |
| 中心的建物が一番上に建っている伽藍（4） | 89 (26%) |
| C | |
| 前面に拝殿のある中心的建物の数（5） | 78 (100%) |
| 中心的建物＞拝殿（6） | 24 (31%) |
| 中心的建物＜拝殿（7） | 21 (27%) |
| 中心的建物＝拝殿 | 33 (42%) |

表３－宗教施設の中心的建物

### ３．４．２．　四面対称の建物の分析

#### ３．４．２．１．　分析方法

本節では、『江戸名所図会』において掲載されている主な四面対称の建物：火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根を持ち、かつ人の入れる内部空間をもった建物（以下、方形建築と呼ぶ。）を対象に、その象徴性について分析を行う。　塔のような建物の垂直性が強い象徴性を持つ為の要点は、１．１．３．２．でまとめたように、　１．全方位に対応した形態である　２．中心に建てられている　　３．周りの垂直物を従える　とういうものであった。本節の分析はこれら３つの項目のうち１番目の条件を満たしている上記の三対象に対して残り二つの項目を検討を行う事で、その建物の象徴性の強さについて検討する。

fig-3-4-2-1-1 火の見櫓

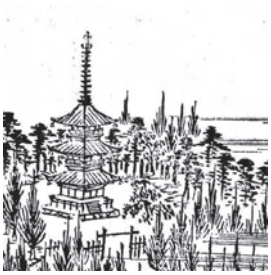
fig-3-4-2-1-2 仏塔

fig-3-4-2-1-3 方形建築

以下、対象建物ごとに分析を行う。

### ３．４．２．２．　分析

#### ３．４．２．２．１．　火の見櫓

火の見櫓は大体１０町に１カ所の割合で配置された櫓で、火事を見張るために作られた塔状の建物である。下図のように消防、自警団の役割をしていた自身番の詰所である番屋を下に設けたものも多く、装飾性は低く実用性の高い建物である。高いもので９．３ｍ程あり、通常の建物の２倍程度あった。

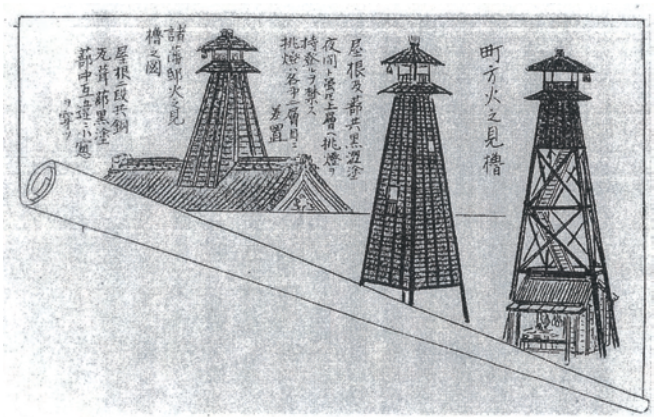


fig-3-4-2-2-1-1「町方火の見櫓」

（「風俗画報」明治３１年１２月）

『江戸名所図会』に掲載されていた火の見櫓は江戸市街のみ確認できた。また、６件の画像に描かれた火の見櫓のうち５件は町火消しの火の見櫓であり、１件が大名火消しの火の見櫓であった。これは意匠から判別が可能である。

分析の結果、図版から６件全ての火の見櫓は確認できる範囲で隣接する街区の中で一番高い建物であった。また、立地については以下に示すように、街区の中に建てられるものと、通りに面するものの両方が確認できた。例えば、fig-3-4-2-2-6 のように明らかに橋のたもとの広場に対して裏手の場所に建つものもあれば、fig-3-4-2-2-7,8 のように新吉原の堀で囲まれた島の中心に建つものもあるという事である。以上より、結果は統一感が無い物であった

| | 高さ | 通りに面している |
|---|---|---|
| fig3-4-2-2-1-2 | ○ | ○ |
| fig3-4-2-2-1-3 | ○ | ○ |
| fig3-4-2-2-1-4 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-1-5 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-1-6 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-1-7 | ○ | × |

表４－火の見櫓

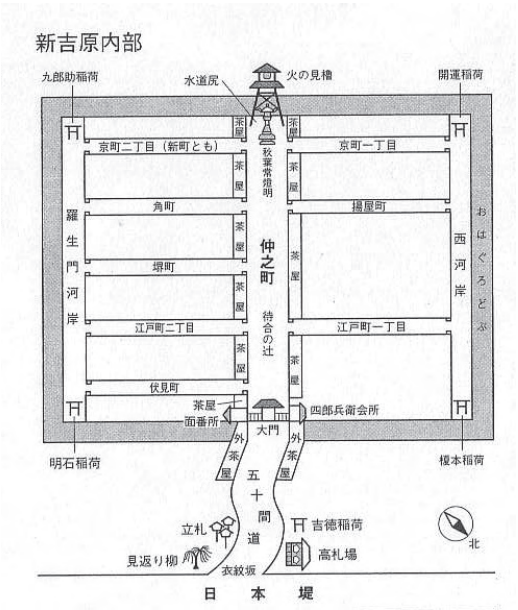


fig-3-4-2-2-1-8 新吉原の地図（浮世絵にみる江戸の歳時記）　メインストリートである仲之町の先に火の見櫓と、火伏せの神である常燈明が置かれた。

山本純美　：　江戸の火事と火消し，河出書房，1993

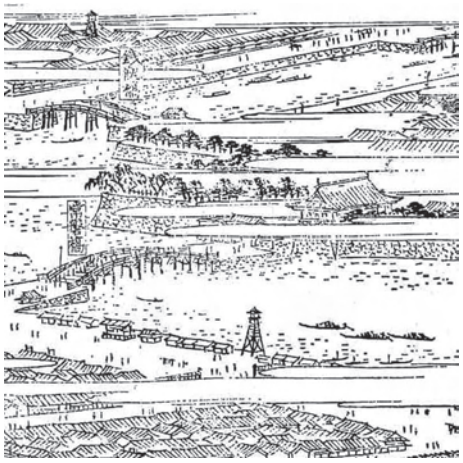

fig-3-4-2-2-1- 2　火の見櫓は堀を背に建っており、下部は何も無く広場になっており、前面に大通りがある。火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

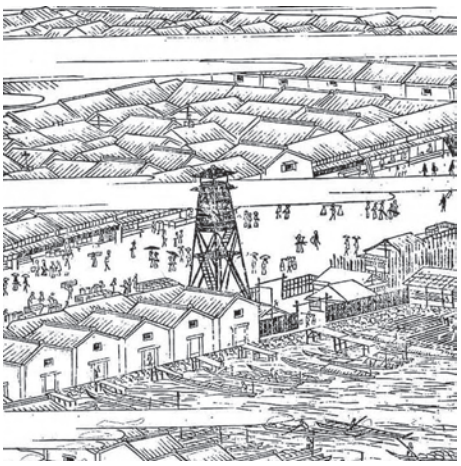

fig-3-4-2-2-1-3　火の見櫓は堀を背に建っており、下部は確認できないが前面は大通りである。火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

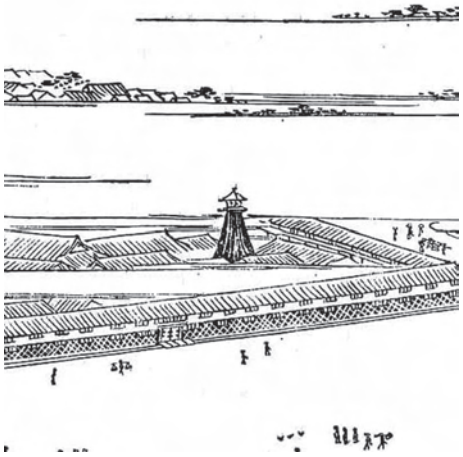

fig-3-4-2-2-1-4 火の見櫓は大名屋敷の中に建っており、下部は建物であると思われる。確認できる範囲で火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

fig-3-4-2-2-1-5 火の見櫓は馬場を背に建っており、通りとは接していない。火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

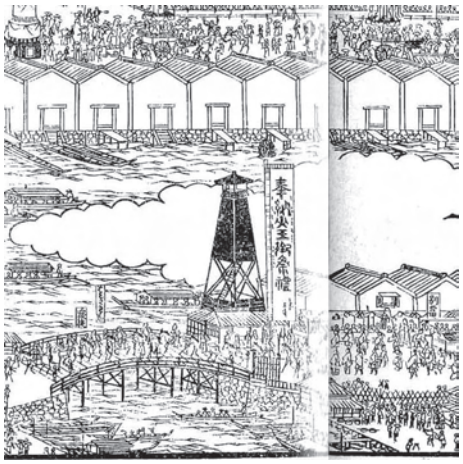

fig-3-4-2-2-1-6 火の見櫓は堀を背に建っており、下部は判別できないが、建物は通りを面していない。火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

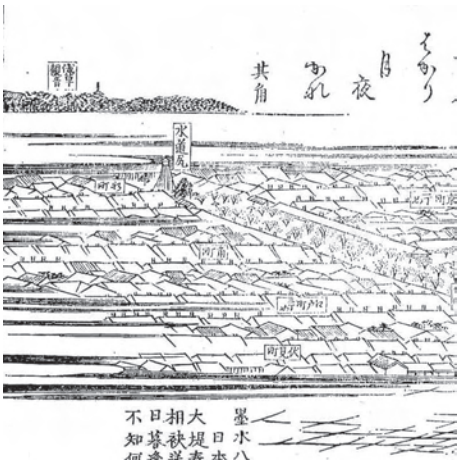

fig-3-4-2-2-1-7 火の見櫓は堀を背に正面に並木通りがある。下部は確認できない。火の見櫓は接触している街区の中で一番高い建物である。

補足として鍬形萬斎の『江戸絵図』に描かれた江戸における火の見櫓の場所を印した絵を下に掲載する。

この絵には、比較的均等に火の見櫓が建っている事が確認できる。

fig-3-4-2-2-1-9『江戸絵図』 鍬形萬斎

### ３．４．２．２．２．　仏塔

まず仏塔について簡単に説明する。仏塔の起源はインドのストゥーパというインドの墓であり、それが中国において木造楼閣建築の形態と融合して層塔形式の塔が生まれ、後に日本に伝わった建築形式だとされている。それはその後も形式を大きく変えずに江戸時代に至っている。

頂点の相輪は躯体の下に舎利が納められている標として機能する事に関して、１章ではその下降的性格を説明した。

塔は通常寺院の伽藍の中にある。伽藍内の塔の位置は時代によって異なる。６世紀頃の飛鳥寺の伽藍配置において仏塔は中心を占めていたが、時代とともに塔の重要性は薄れ周縁に建てられるようになった。このような塔の歴史的背景の中で、江戸の仏塔の象徴性を考察していく。

fig-3-4-2-2-2-1「谷中天王寺」
（広重　絵本江戸土産）

『江戸名所図会』に掲載された仏塔を　１．伽藍の規模　２．伽藍内での高さ　３．門や鳥居からでる軸線上に建っているかの３つの項目について統計をとった。その結果を表５に示す。

| | 伽藍の規模 | 高さ | 軸線 |
|---|---|---|---|
| fig3-4-2-2-2-2 | 大 | ○ | ○ |
| fig3-4-2-2-2-3 | 小 | × | ○ |
| fig3-4-2-2-2-4 | 小 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-2-5 | 大 | × | × |
| fig3-4-2-2-2-6 | 大 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-2-7 | 大 | ○ | × |
| fig3-4-2-2-2-8 | 大 | ○ | ○ |

表５－仏塔

これによると、７つのサンプルに対して５種類のパラメーターの組み合わせがある事がわかる。

垂直性の象徴性が高いと思われるのはfig-3-4-2-2-2とfig-3-4-2-2-8の２つであった。また、fig-3-4-2-2-6はfig-3-4-2-2-1の塔と同一のもので、谷中天王寺の五重の塔である。この塔は一度火事で焼失した後、寛政三年（１７９１）に再建されたもので、当時関東で最高の高さ（３４．１８m）を誇った仏塔であったが、図版のように伽藍の中心というより周縁に建てられた。以上のように、火の見櫓同様、結果は統一感が無い物であった。

---

山岸常人　：　塔と仏塔の旅，朝日新聞社，2005
井上充夫　：　日本建築の空間，鹿島出版会，2000

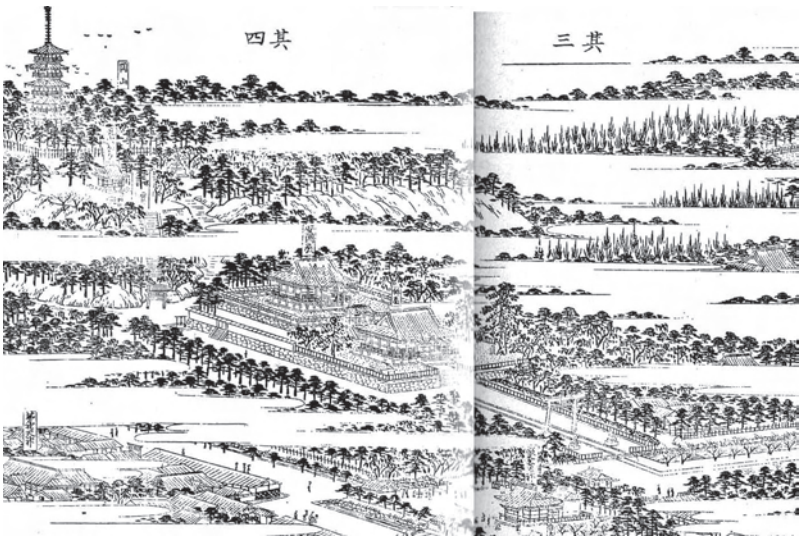


fig-3-4-2-2-2-2 仏塔は伽藍内で一番高い場所に位置する地盤上に建てられている。しかし、正面の鳥居の軸線上にはない。仏塔は伽藍内で一番高い建物である。伽藍の規模－大

fig-3-4-2-2-2-3 仏塔は門の軸線上に建てられている。仏塔は伽藍内で一番高い建物である。
伽藍の規模－小

fig-3-4-2-2-2-4 正面の門の軸線上にある。仏塔は伽藍内で一番高い建物では無い。
伽藍の規模－小

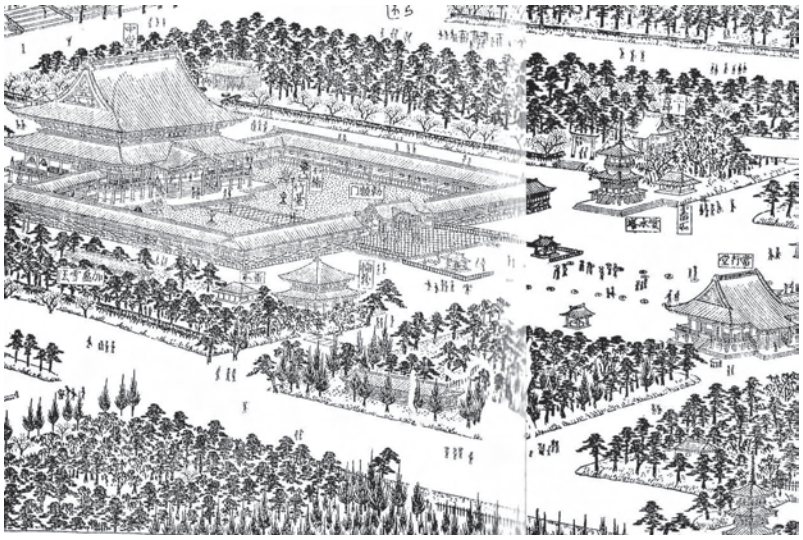

fig-3-4-2-2-2-5 仏塔は伽藍中央の軸線上にはない。仏塔は伽藍内で一番高い建物では無い。伽藍の規模－大

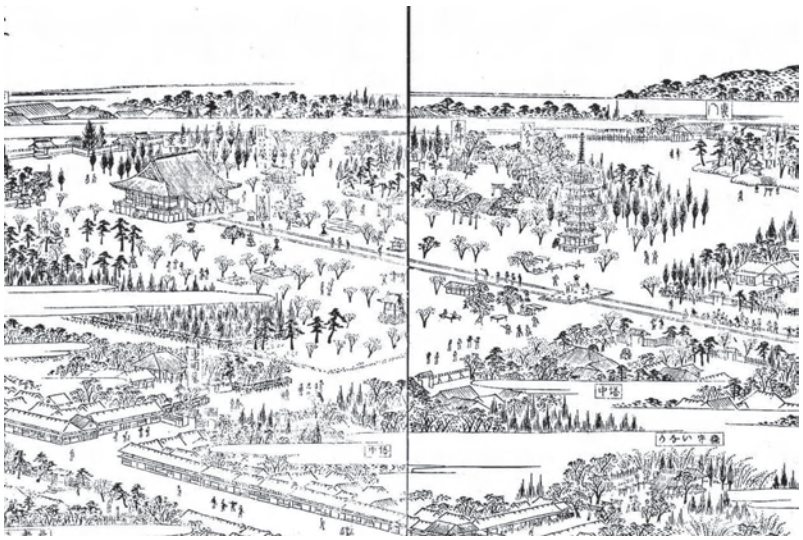

fig-3-4-2-2-2-6 仏塔は門の軸線上に建てられていない。仏塔は伽藍内で一番高い建物である。伽藍の規模－大

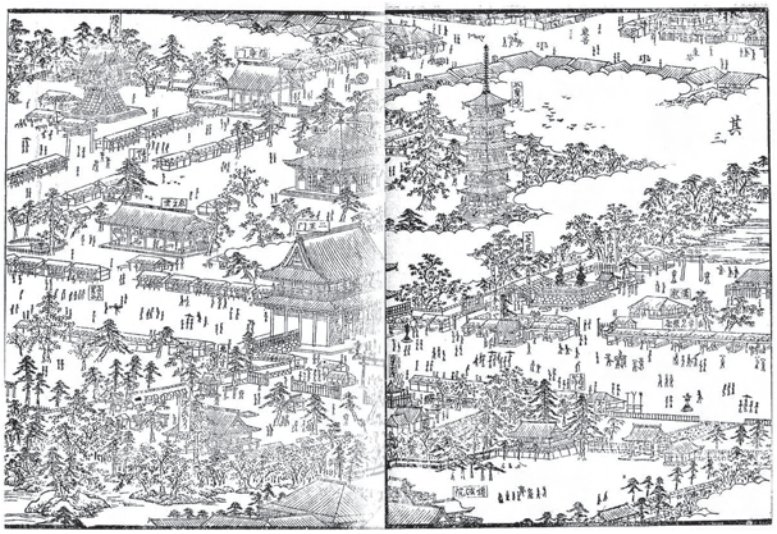

fig-3-4-2-2-2-7 仏塔は門の軸線上に建てられていない。仏塔は伽藍内で一番高い建物である。伽藍の規模－大

fig-3-4-2-2-2-8 仏塔は伽藍中央の軸線上にある。仏塔は伽藍内で一番高い建物である。